



軽種馬防疫協議会 ニュース速報 (号外)

2020年4月2日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

タイにおけるアフリカ馬疫の発生について

タイにおいて、初めてアフリカ馬疫の発生が報告されましたので、以下に情報をまとめました。

また、国際獣疫事務局（OIE）のホームページ上にも、現時点での情報が掲載されておりますので、ご興味のある方はそちらのほうも併せてご確認下さい（英語）。

https://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_refer=MapFullEventReport&reportid=33768

タイにおける発生状況

今回発生した地域は、タイ・バンコクから北東に約 250km の距離にあるナコーンラーチャシーマー（Nakhon Ratchasima）県であり、これまで 62 頭が発症し、うち 42 頭が死亡、さらに感染馬との接触が疑われ 279 頭が当局の監視下におかれています。OIE の情報によると、侵入経路は現在のところ不明であり、今後の情報に注視が必要です。

なお、タイと日本の間では、現在、有効な馬の輸入家畜衛生条件はないため、タイから馬が輸入されることはありません。

アフリカ馬疫とは？

アフリカ馬疫とは、主に馬属にアフリカ馬疫ウイルス（レオウイルス科オルビウイルス属）が感染することによって引き起こされる伝染病です。馬属の中でも、特に馬は感受性が高く、致死率（70-90%）が非常に高いことが知られています。一方、シマウマは感染するとウイルス血症が引き起こされるものの不顕性に耐過することから、常在地において、重要な感染源となっていることが知られています。本ウイルスは感染動物を吸血したヌカカによって、他の健康な動物に伝播するため、馬同士の接触により感染が伝播することはありません。

アフリカ馬疫の存在は古く（15 世紀頃）から知られており、主な発生地域は南アフリカから中央アフリカ（サハラ砂漠以南）ですが、過去には北アフリカや中近東、インドにまで発生が拡大したことがあります。しかし、今回のような東南アジアでの発生例は過去にありませんでした。

感染した馬には、主に循環器系および呼吸器系の障害に起因する臨床症状が認められます。病型は一般的に 4 型に分類され、症状が軽度のものから、発熱型（馬疫熱）、心臓型（亜急性型）、心臓型と肺型の混合型（急性型）および肺型（甚急性型）に区分されますが、その境界は必ずしも明確ではありません。

アフリカ馬疫に対する特異的な治療法はなく、発症馬の摘発淘汰、発生農場および周辺牧場の移動禁止が防疫上重要となります。常在地域では生ワクチンが実用化されていますが、生ワクチン株と自然界のウイルス株が野外で交雑して、新たなハイブリッドウイルスが生み出され流行するということが繰り返されてきたため、現在、不活化ワクチンの開発が南アフリカで行われています。